

施策評価シート（評価対象年度：令和元年度）

1. 基本的事項

① 施策名〔施策小〕	3 読書活動の推進	② 施策番号	7703
③ まちづくりの方向〔政策（章）〕	1 すべての人が尊ばれ、その個性が発揮できるまち		
④ 基本施策〔施策大（節）〕	4 だれもが、いつでもどこでも学べる生涯学習推進のまちをめざします		
⑤ 基本的方向〔施策中〕	2 生涯学習内容の充実		
⑥ 担当部名	⑦ 担当課名		
教育部	文化振興課		

2. 施策の現状把握

〔1〕施策の対象・意図

① 施策の対象（誰、何に対して施策を実施するのか）	市民（市内在学、在勤者を含む） 児童（0～18歳まで）
② 意図（対象をどのような状態にしたいのか。何を狙っているのか）	子どもが自主的な読書活動を行える環境を整備することで、子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、豊かな創造力を身につけるようにする。
③ 環境（この施策を取り巻く状況はどのような状態なのか、また、国や府の動きはどのような状態で、今後どのように変化していくと考えられるか）	平成13年「子どもの読書活動の推進に関する法律」、平成17年「文字・活字文化振興法」が施行され、読書推進が法制化。平成27年の学校図書館法改正により、学校司書と連携した読書推進、学力向上の取組みが、今後一層求められる。

〔2〕施策指標及び推移

施策指標（成果指標）		単位	指標とした理由・考え方
① 貸出冊数	冊		図書館統計の指標の一つであり、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の成果指標としても設定しているため、指標とした。
② 子ども読書活動推進事業の参加者	人		図書館は、あらゆる年齢層の市民が利用できる施設であり、特に子どもの読書活動推進のため様々な取組を行っている。その取組みがわかる指標であり、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の成果指標としても設定しているため、指標とした。
③	人		

	指標名	単位		H29実績	H30実績	R1実績	R2見込	R3目標	備考
①	貸出冊数	冊	目標値	390,000	390,000	390,000	390,000	390,000	
			実績値	356,557	345,911	366,101	—	—	
			達成率	96.1%	91.4%	93.9%			
②	子どもの読書活動推進事業の参加者	人	目標値	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	
			実績値	5,339	5,416	5,440	—	—	
			達成率	106.8%	108.3%	108.8%			
③			目標値						
			実績値						
			達成率						

〔3〕施策を構成する事務事業

	事務事業名	成果指標					総事業費（千円）			事務事業評価結果		重点化
		指標名	単位	H30実績	R1実績	R2見込	H30実績	R1実績	R2見込	総合評価	今後の方針	
1	図書館運営事業	貸出冊数	冊	345,911	366,101	—	56,382	53,961	53,297	A	ア	◎
2	子どもの居場所づくり事業	参加者数	人	—	303	—	—	1,815	1,815	A	ア	○
3												
4												
5												
6												
7												
8												
計	2						56,382	55,776	55,112			

3. 施策の評価

評価の視点	説明・コメント等
①本施策の意図すること(目的)は、上位施策(施策中)の達成にどのように貢献しますか。 (施策所管課等としての考えをお示ください。)	市民の読書及び図書館資料に関する要望に応え、市民が考え、学び、楽しみ、自己決定していくための多種多様な資料・情報を提供することで、知る自由を公的に保障し、地域の情報拠点としての役割を果たすことで、生涯学習内容の充実に貢献する。
②本施策で設定した指標から何が読み取れますか。 (2[2]の表の数値の推移から分析できることをお示ください。)	泉南市子ども読書活動推進計画に基づいた各取組により、参加者数が増加している。市民一人当たりの貸出冊数は、減少傾向にあるが、数字として表れない貸出を伴わない利用(資料の閲覧、社会見学等)や、背景にある要因も考慮にいれるべき指標である。
③本施策において市民、団体等との役割分担や市の関与は適切ですか。 (施策所管課等としての考え(理想と現実)をお示ください。)	市民ボランティアや各種団体等と協働することで、図書館サービスの充実、利用促進につながっているため、適切である。
④施策を構成する事務事業は適正ですか。 (2[3]を踏まえ、施策目標に対し事務事業にずれはないか、数は適正かについて考えをお示ください。)	事業を効果的に進めるため、適正であるとする。
⑤施策を構成する事務事業の中で重点化及び縮小化についてどのように考えますか。 (2[3]において、◎、○、▲とした理由をお示ください。)	市民ボランティアや各種団体等と協働し、読書活動を推進することで、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身につけられるようにするためにも、重点化が求められるものとする。

4. 一次評価(所管課評価)

一次評価	評価(A～D)	課題等	A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる
	B	子ども読書活動推進計画に基づいた事業の拡大を図るため、関係機関や団体と連携した効果的な運営が必要である。	B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある

5. 改革、改善案

即時的対応 (すぐに取り組む改善案)	子どもが、読書に親しむ環境を整備し、広報・啓発活動を行う。
短期的対応 (1、2年のうちに取り組む改善案)	研修等による職員の知識・技術向上を図る。
中長期的対応 (3～5年をめぐりに取り組む改善案)	「泉南市子ども読書活動推進計画」に基づき、子どもが読書に親しむ環境を、図書館、学校、地域、家庭で連携、協力して取り組んでいく。

6. 二次評価(行革・財産活用室評価)

二次評価	評価(A～D)	課題等	A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる
	B	貸出冊数や子ども読書活動の参加者については一定値を確保しており、施策として適切に行われている。 関係機関や団体と連携を通じた利用者増に向けた取組などにより、計画に基づいた読書活動の推進を引き続き進められたい。	B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある